

令和7年第18回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年7月28日（月曜日）			開会	12:58		会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	14:24					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席	
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席				
委員外の出席								合計	0名	
事務局職員	局長 入倉 伸顕		主幹		木幡 友哉		合計		2名	
傍聴者数	一般 0名		報道関係者		0名		合計		0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過			
委員長 12番 松原	12:58 開会			
	出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 開会挨拶			
委員長 12番 松原	議事1 議員定数に関する事項について			
	・ 本日は、これまで調査を行ってきた結果と、6月24日から25日にかけて実施した行政視察を踏まえ、各委員が妥当と考える定数を聞き、その意見をまとめた上で、当委員会としての最終的な方向性を決めていきたい。 ・ 議員定数は現状維持の16名が妥当と考える。			
委員 13番 中村	委員会の定数は7名程度が妥当との結論を出し、議長は委員会に参加しないこととして議論してきたことから、16名か15名に絞られるが、当委員会の発足目的として、議会機能の充実、議会の活性化などが上げられており、そのためには、広く町民の声を聞き取る議会としていなければならない、このことを達成するためには、定数を削減しないことが最も望ましい。 志を持った人が議員になりやすいように、また、議員負担を分散するためにも定数を減らさないほうがいいと考える。			
委員 9番 小椋	・ 議会の機能性を担保することとして、委員会の定数を7名程度としたことで活動のボリュームは増えたが委員会機能は強化された。 今後、人口が明確に減るなかで、総務産業常任委員会が8名で、福祉文教常任委員会が7名だが、7名でも十分機能していることから、7名+7名+議長1名の15名がいいと思う。 現状維持とする考えもわかるものの、論理的に考えれば15名が妥当かと考える。 ただし、16名とすることに対するメッセージが強くあれば16名でも納得できる。			
委員 2番 吉田	・ 1委員会7名以上を維持できる定数であればいいと思っているが、15名か16名で決めかねている。 議会機能強化の側面から、16名でもいいとも思う。			
委員 1番 市川	・ 15名が妥当と考える。 15名で議会機能が担保できることが分かったので、今後の人口減を見据えた上で1名減で頑張っていければいい。			
委員 3番 高橋	・ 15名が妥当と考える。 これまでの調査からも、委員会活動は15名いればやっていける。			
委員 11番 今西	・ 15名が妥当と考える。 今後一定期間を今回決定した人数でやっていかなければならないと考えた場			

令和7年第18回議員定数等調査特別委員会 要点記録

合、人口減を考慮する必要があるので減員が必要。

ただし、15名が最低ラインであるとも考える。

定数が減れば責任も重くなるが、うまくやっていきたい。

なお、これまでも定数減を行ってきたが、個人的には減ったことによって困ったという話もあり聞いたことはない。

・議会活性化計画の中で、当委員会の設置目的として、定数減も視野に入れて検討することとされている。

当委員会として、委員会定数は7名、議長は含まないという考え方で進めてきたことから、7名×2+議長の15名が委員会の意見としては妥当と考える。

しかしながら、個人的には、財政負担も多少考慮する必要があると考え、議長も委員会に参加する方法で、14名でも十分やっていけると思う。

副委員長 8番 田村

委員長 12番 松原

採決 議員定数に関する事項について

・議員定数を16名とする案

委員の賛否	市川	吉田	高橋	田村	小椋	今西	中村
賛成							○
反対	○	○	○	○	○	○	

・議員定数を15名とする案

委員の賛否	市川	吉田	高橋	田村	小椋	今西	中村
賛成	○	○	○		○	○	
反対				○			○

・議員定数を14名とする案

委員の賛否	市川	吉田	高橋	田村	小椋	今西	中村
賛成				○			
反対	○	○	○		○	○	○

・当委員会の調査結果として、次期改選後から議員定数を15名とすることに決定する。

委員長 12番 松原

議事2 その他議会活性化に資する事項のうち、政務活動費について

・議事1同様、これまで調査を行ってきた結果と、6月24日から25日にかけて実施した行政視察を踏まえ、政務活動費の要否やその他の案などについて各委員の意見を聞き、それをまとめた上で、当委員会としての最終的な方向性を決めていきたい。

委員 11番 今西

・政務活動費は不要。

旅費を設けて遠方に調査に出向くよりも、もっと町内などの身近で活動できることがあると思う。

委員 3番 高橋

・政務活動費は不要。

個人的には、まずは議会内部のことを覚えることを優先したい。書籍なども買ってはいるが、自分の議員活動のために、勉強したいのであれば、自費で旅費を出すことも必要。そうでなければ、町民に説明がしづらい。

委員 1番 市川

・政務活動費は不要。

書籍などは必要経費だと思うし、事務手続きに取られる時間を考えると、多少煩わしさもある。そういった経費は議員報酬で補填できると考える。

令和7年第18回議員定数等調査特別委員会 要点記録

	会派などがあるなら有効活用できるかもしれないが、個人に対する旅費であれば不要。
委員 2番 吉田	・政務活動費は必要。
	今後議員になりたいと思う人の選択肢を増やしたいと思う。ただし、政務活動旅費などの話も出たので、導入の形態は今後議論して詰めていく必要があると考える。
委員 9番 小椋	・政務活動費は必要。
	議員活動を担保するための手段は用意しておきたい。個人的には、仕事の出張に併せて視察を行っているが、状況が違う人は行けない。そういう部分をなくしたい。 ただし、物品など全般を対象とすると事務も煩雑になるので、政務活動旅費として旅費に限定するなど、今後、検討していく必要がある。 なお、検討の際には、期間2年の特別委員会などではなく、もっと短期間で検討するべき。
委員 13番 中村	・政務活動費は必要。
	監査をどうするか、対象経費の範囲はどこまでとするか、町民にどう理解してもらいかなどの問題はあるが、原則的には導入したほうがいい。 政策議会になっていこうということであれば、もっと勉強する必要があることから、広く勉強の機会を持てる状況を作りたい。 また、そういう制度があるということは、議員の任務として勉強をずっと続けていく必要があるということであり、議員はそのことを自覚しなければならない。 政務活動費を導入する場合、条例や規則の内容、監査の体制はしっかりしておく必要がある。 シンプルに旅費にしばって導入することも概ね賛成だが、条件的に遠くに視察に行く時間を持ってない議員もいるかもしれないので、書籍等にも使えるようにしたい。
副委員長 8番 田村	・現時点においては、政務活動費は不要。
	政務活動旅費とするならば賛成。例えば、ふるさと会や友好都市物産展などに参加することで、人とのつながりができたり、その後の議員活動に便利なこともある。これから新しい議会を作っていこうということであれば、旅費は必要。 また、政策立案機能を高めようとするのであれば、政策研究会を立ち上げる方法もある。 ただし、条例で定める、いわゆる通常の政務活動費を導入するには時期が早いと考える。
委員 一同	・政務活動費について自由討議。
委員長 12番 松原	・政務活動旅費から検討すべきなどの細かい条件を付した意見が出てきたことから、政務活動費導入の有無についての採決は取らないこととする。
	自由討議の内容から、個人や会派に対する条例で定める正規の政務活動費については、次期が早いことから不要とするが、段階を経て政策研究会や政務活動旅費などそれに類似した、簡易な方法などの仕組みや予算づけを議論・研究していく必要があることを付帯意見とした内容で意見をまとめる。 その内容について、次回会議時に改めて可否を決定することとしたい。

令和7年第18回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員	一同	・異議なし。
		議事3 その他
		(1)北海道町村議会議長会及び白老町議会視察報告書のまとめについて
		・前回会議時の各委員の意見を基に、事務局で報告書をまとめたので、修正等あれば意見してほしい。
委員	13番 中村	・3ページの中段、「今後はこれを実現するため」の「これ」が何を指すか不明確なので明確に表記してほしい。
		また、4ページの下段、「本町において、これらが実現可能かは分かりませんが」という表現が適切でない気がするので、削除してはどうか。
委員長	12番 松原	・ほかに修正等あるか。
委員	一同	・特になし。
事務局	主幹 木幡	・追って指摘のあった部分を修正してラインワークスでお知らせする。
委員長	12番 松原	・ほかに何かあるか。
委員	一同	・なし。
委員長	12番 松原	・次回開催日は8月25日14時としたい。
委員	一同	・異議なし。
委員長	12番 松原	閉会挨拶
委員長	12番 松原	14:24 閉会